

授業科目名	消費者法	期別	前期	授業形態	講義
担当者名	岡田希世子	単位数	2	開講年次	2

授業科目の概要

この講義は、消費者問題に関する法を学ぶものである。わが国において、「消費者法」に関する包括的・統一的な実定法の体系は存在していないため、消費者問題に対応する法律群を学ぶことになる。

また、現代社会で生活する人は、その多くが消費者であり、消費者法は我々の生活に密接に関係する法である。関係する法は、民法、行政法などである。そこで、これらの法の知識を前提として、実際の消費者問題を扱いながら、消費者被害の実態等を理解しつつ、実社会で役に立つ消費者問題に関する知識の習得を目指す。

到達目標

現代社会で生じている消費者問題について、様々な法制度、法理論を機能的に活用することによって、消費者問題を解決するための知識を身につけることで、法律実務家として消費者問題に関する紛争を解決するための指針を修得する。

成績評価基準および方法

到達目標で提示した内容を基準に、定期試験（70%）、小テストや質疑応答の内容（30%）などを総合的に判断する。

テキストおよび参考文献

教科書：日本弁護士連合会編『消費者法講義〔第5版〕』（日本評論社、2018年）4,730円

ISBN 978-4-535-52313-5

参考書：廣瀬久和・河上正二編『消費者法判例百選』（有斐閣、2010年）2,985円 ISBN 978-4-641-11500-2

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

- ・事前学習としては、事前に提示する教科書の該当箇所を熟読し、具体的な内容を把握しておくこと（3～4時間程度）。
その際、民法の契約等の知識が必要になる場合は、該当分野の復習をしておくこと。
- ・事後学習としては、講義で扱った教科書、レジュメ、判例等を確認・整理して、自分の見解を確立すること（3～4時間程度）。
- ・講義は、教科書、レジュメ、判例百選等を用いて行う。レジュメおよび百選にない判例は講義当日に配布する。

授業計画および内容等

第1回	消費者問題と消費者法	消費者問題および消費者法の意義等
第2回	消費者契約の過程	契約の成立と意思表示の瑕疵、契約内容と効力
第3回	消費者契約法	契約締結課程と契約内容の適正化
第4回	消費者取引と不法行為	消費者取引における不法行為責任

第 5 回	特定商取引法	特定商取引法の意義と機能
第 6 回	消費者信用・ 資金決済と 消費者	クレジット取引、割賦販売法の意義と機能
第 7 回	独占禁止法	独占禁止法の意義と機能
第 8 回	表示・広告と 消費者	表示・広告における消費者保護
第 9 回	金融商品と 消費者	金融商品取引の法制度および関係法
第10回	製品の安全と 被害救済	製品の安全、製造物責任法
第11回	住宅と消費者	欠陥住宅、欠陥住宅訴訟
第12回	消費者信用と 多重債務	多重債務をめぐる問題
第13回	医療サービスと 消費者	医療サービス、医療過誤訴訟
第14回	情報化社会と 消費者	情報通信および電子商取引に関する法律
第15回	消費者問題と 消費者紛争	消費者紛争解決手続、消費者行政と消費者政策
関連 URL		
特になし		
備考欄		
教科書と授業シラバスの対応関係は、第 1 回目の授業にて提示する。		